

水稲作におけるヘアリーベッチの緑肥効果

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

水稲作におけるヘアリーベッチの緑肥としての有効性について検証し、有機農業、環境保全型農業の推進に資する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

ヘアリーベッチは緑肥として有効であり、化学肥料の代替として利用可能である。

[ヘアリーベッチの生育量]—水稲移植(6月下旬)の約40日前に鋤込んだ場合

- ・前年の11月～当年の3月に播種した場合、窒素分量は12.5～6.0g/m²に相当する。
- ・30ps級のトラクタで概ね1回の耕耘作業で鋤き込むことが可能である。

[水稲の生育・収量]

- ・ヘアリーベッチを緑肥とした場合、水稲の収量は化学肥料栽培(窒素基肥4kg/10a、穂肥3kg/10a)の8～9割程度確保できる。

[経費]

- ・種子代は4,828円/10a(播種量4kg/10a)、化成肥料は7,538円/10a(基肥4、穂肥3kg/10a)となる。
注)いずれも、平成23年購入実績。

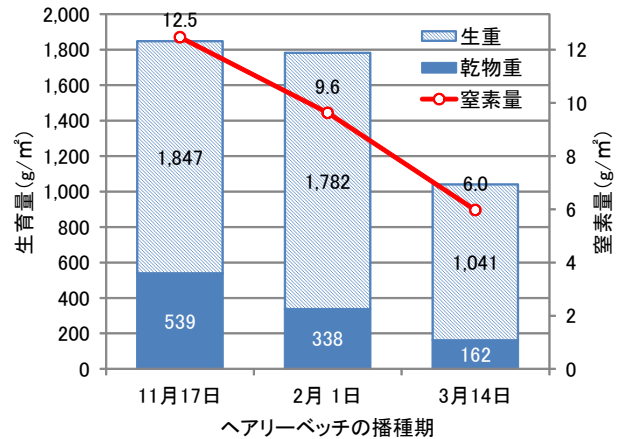


図1 ヘアリーベッチの鋤込み時(5月20日)の生育量と窒素量



写真1 ロータリ耕による鋤込状況
(11月中旬播：翌年5月21日撮影)

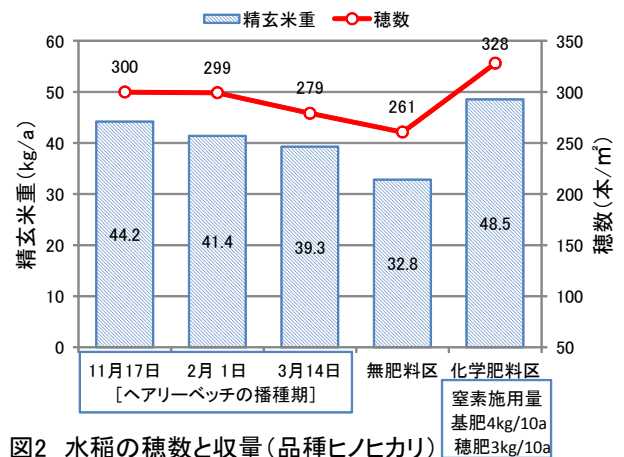


図2 水稲の穂数と収量(品種ヒノヒカリ)

注)本内容は、種子消毒、本田病虫害防除2回実施した場合の成果である。

3. 期待される効果

- ・水稲作における有機農業、環境保全型農業の拡大に寄与できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 作物栽培チーム

TEL：0978-37-1160

住所：宇佐市大字北宇佐 65